

「永代（えいたい）橋梁」の建築学的所見

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

- 下部構造（躯体）は、橋脚2基・橋台2基で構成
- 上部構造は、桁連数三連の「三径間単純鉄桁（ガーダー）橋」。橋長40.74mを計測
- 主桁は「デッキ（レール敷設箇所が桁の上面にある上路）式及びスルー（桁下面位置にある橋床に縦桁を設置し、床組みで橋面とする下路）」式の併用形式。現在レールは撤去されているが、橋面は水準水平と思われる。
- 左岸側一番目橋脚は、煉瓦造（イギリス積み）と花崗岩切石での構成。西側には支承2基、東側には4基、上流側には角石（花崗岩切石15段）を有し、橋脚平面幅1.50m、全長6.07m、地上高3.50mを測る。
- 橋脚の角石は上流部だけを、平面形状「三角形」にした水切り構造の先（尖）端部を有する。この構造は石造アーチ橋では類例を見るが、石造・煉瓦造の鉄道橋脚での事例は希少と思われ、類例を確認中である。
- 左岸側橋台は全長4.27m、全高2.35mを測る。
- 左岸側橋台と左岸一番目橋脚の純経間は、12.58mを測る。
- 左岸側一番目橋脚西側・南側には、12.7mm機銃弾跡2箇所、爆弾破碎痕跡27箇所が確認できた。ただ、立入規制のため主桁鋼材への銘板・刻印・機銃弾痕跡は確認できていない。



- ① 右岸側第1番橋脚西側面の全景
- ② 左岸側第1番橋脚西側面の機銃弾・弾痕状況
- ③ 左岸側第1番橋脚南側面の弾痕状況
- ④ 同橋脚先端部の角石状況
- ⑤ 機銃弾痕跡

